静岡ゐのはな会

佐藤　通，宮本　恒彦，笠松　紀雄，菅ヶ谷 純弘，鈴木　昭一，佐々木 健身

静岡ゐのはな会のあゆみ

千葉大学医学部同窓会ゐのはな会静岡県支部なるものが，いつ設立されて，初代支部長は誰先生だったかは詳らかではありませんが，これまでの先輩諸先生の話から推察するに，勝見次郎先生（S.11）が初代代表役を務めていたようです。

それは千葉医大静岡県県人会様の集いのようでした。

昭和37年に中村武先生（S.20二外）が静岡市に中村武外科病院を開設し，医学部同窓会静岡支部が形を成し，会長に就任し支部活動が始まったようです。

この体制で平成９年まで続き，同年に前浜松医大教授野末道彦先生（S.33耳鼻）が会長に就任し「ゐのはな静岡」も発刊されて，同窓会活動も活発化されました。

平成15年，野末会長は健康上の理由で，任期半ばで辞任し，指名された佐藤通（S.35二外）が会長代行となり，次回総会で会長を承認されて現在に至っています。

静岡県出身で母校の教授になった先生は，鈴木宣民眼科教授（S．６）静岡市出身：相磯和嘉衛生学教授・学長（S.11）韮山出身：鈴木次郎整形外科教授（S.14）御殿場市出身です。昭和49年に開設された浜松医科大学には宮本先生が後述している通り，ゐのはな会関係では６人の教授と助教授１名が就任しています。静岡県千葉大学医学部同窓会は自然発生的に生じたようで，母校卒業後故郷に帰り，病院に赴任したり，開業したりした諸先輩が牽引役をしたようです。沼津市に開業した大塚三八雄先生（S．６），星野重雄先生（S.11）や三島市の村尾正先生（S．４）等の諸先輩です。そして各執筆担当が後述している通り，現在は後藤信昭副院長（S.50一内）沼津市立病院：中田恒院長（S.55一内）清水厚生病院：難波宏樹脳外教授（S.54）浜松医科大学：堺常雄院長（S.46脳外）浜松聖隷病院：宮本恒彦副院長（S.54脳外）聖隷三方原病院：橋爪一光副院長（S.47群大・肺内）及び笠松紀雄呼吸器科長（S.56肺内）は共に西部医療センター：植田育也小児集中治療センター長（H．３小）県立こども病院の要職に夫々赴任しています。

高齢者活動としては，介護老人保健施設長で忍頂寺紀章先生（S.42脳外）がすゞかけ病院院長を経て現在も同施設で活躍し，佐々木健身先生（S.44一内）は沼津市立病院内科部長から中伊豆リハビリセンター部長として活躍しています。原壮（S.40二外），泉屋嘉昭（S.44脳外）の両先生は共に清水厚生病院院長を経て，同病院老人保健施設きよみの里の施設長です。

菅ヶ谷先生の県医師会関係活動に補足しますと渡邉英詩先生（S.30整外）は平成16年４月から平成18年３月まで富士市医師会会長を，佐藤通（S.35二外）は昭和62年４月から平成９年３月まで熱海市医師会会長として夫々医政活動に精励確勤しました。

菅ヶ谷純弘先生（S.46一内）は静岡県理事として平成２年４月から平成４年３月までと平成10年４月から現在まで尚静岡県医療及び医政の立案実行者として活躍中です。

他大学医学部卒業生には政治活動に関与する傾向が多くみられますが，ゐのはな会々員には県内のみならず全国的にも余り見られません。

佐藤はS43年に湯河原胃腸病院（理事長中山恒明教授）の理事となり就職し，S53年に熱海に開業しましたが，当時の静岡県医師会会長安井志郎先生（東大，婦）は政治ホビーで武見太郎日医会長引退後の亀卦川宮城県医師会会長と花岡長野県会長との会長選一騎討に花岡選対本部長を務めましたが，その際佐藤は安井静岡県医会長に乞われて，S55年から倒れるまで田中角栄元首相の主治医をしていた関係でこの一騎討に際し，田中元首相への紹介を依頼されて案内することになりました。

そして，次は花岡・羽田・吉川・安井四氏の日医会長選安井・羽田両氏の一騎討更に坪井・福井両氏の日医選へと，好むと好まざるとに関わらず全国行脚する羽目となり，とゞのつまりは地元熱海医師会会長を六期務めることになって了いました。

しかし，この全国行脚で得たものは大きく，例えばゐのはな会々員は医政若しくは政治活動（地方首長や議員・国会議員等）は極めて少なく，特に医政には全く無関心だと感じました。

今，同窓である日医会長唐澤祥人先生への支援に対しても同様に感じられます。

若し，吾々が医師として患者をどこまで救えるかと真摯に対峙し，懸命になればなる程，現行の医療制度や運営内容の低劣さでは努力が実らない現実に誰しも直面する経験がある筈です。

それは政治の貧困のためですから，やはり医政やその活動に積極的になるべきだとの結論になると思います。静岡ゐのはな会としても県民への医療を確実に実行し，その成果を得るには医療体制を如何に適切なものにしていくかの行動にあることを協議実行することの努力をしてきたつもりです。

佐藤が短期間ですが医政に関与した際の静岡県医師会報掲載文を反省も含めて載せます。

掲 載 文

誤って塵網の中に陥つ

熱海市医師会長　佐藤　通

昭和56年秋，安井志郎元県医師会長が，長野県医師会長花岡堅而氏を擁して，亀卦川宮城県医師会長と日医会長を争うんだとゆう話でした。「君，誰か政治家を知らないか」と訊ねますので「田中角栄さんなら知っていますが」と申し上げますと，「本当かよ」と信じ難いという顔でした。「紹介してくれ」ということで，目白に行くことになりました。

田中さんの右側は安井会長，左側に私とコの字に坐わりました。安井会長は硬直した面持ちで小刻みに震えていて，中々発言をしないのです。私が安井会長を紹介し，「武見太郎氏側の宮城の亀卦川会長候補の対抗馬花岡氏を担ぎ，つまり田中さんの敵側の安井でございます」と申すと，安井会長は周章てて「敵側なんて……じゃないんです」と。田中さんはニコニコし乍ら「私は武見さんと同郷で亀卦川さんを応援することになりました。でも佐藤さんの紹介でお会出来たのも縁ですから」と話していました。間もなくお暇したのですが，田中さんが玄関まで送ってきました。これは異例のことです。きっと何か期するところがあったのだなと当時は思いました。玄関では戸塚進也代議士と会ったのを覚えています。

昭和57年４月，花岡堅而先生が日医会長に選ばれました。安井会長が「田中さんのところに行くから，君もついて来てくれよ」と言うので，又，二人で参りました。田中さんは「先刻まで敵同士であったかもしれないが，もう選挙は終わったのだ。これから私の出来ることはして上げるから何でも言って下さい」と話していました。花岡先生が勝つと読んでいたのでした。稲村衆議院社労委委員長を紹介しました。これが直ぐ後で幸いしました。

翌昭和58年に，優生保護法（現母体保護法）のいわゆる経済的項目の削除を，生長の家の玉置参議院議員が厚生大臣経験者の承認を取りつけ乍ら運動をしている事が判明しました。今の総理大臣も○，ある元厚生大臣は○×双方つけていました。更に夜半に，あるトップ記事屋から私に電話がありました。それはこの件で日医小池副会長と重田常任理事が自民党と取引したというものです。つまり，経済的理由で育児が不可能であれば，人工流産を認めるという項を削除するので，そうなれば，私生児が氾濫するのは必至でした。

私は安井会長に直ちに連絡しました。「直ぐ打つ手はないか」との事でしたので，稲村社労委委員長に会い，このように改定された帰結の状況を説明しますと，社労委委員長に報告も無く，決定させないと凄み，更に目白の御大の言質を取ってくれというのでした。田中さんに連絡をとりますと，「日本の良家の子女が子連で結婚式をやれますか，この改定は駄目だ」との事で後日廃案となりました。

この問題と平行して，静岡県医師会に田中角栄さんに講演のため御出で頂くという話が出て，私が早速越山会女王佐藤昭さんに連絡を取り，OKをもらいました。それは昭和58年８月の暑い日でした。私の車に冷たいおしぼりと冷たい水を用意して，静岡駅の一番乗り易い位置に停車しました。ホームに迎いに上がりますと，警備の警官の数も多いのに驚き，ものものしいので不思議に思っていますと，間も無く鈴木善幸首相が現れました。小一時間程後に，田中角栄さんがホームに降りたったので，車にご案内したところ，車が見当たらないのです。一緒に来た早坂秘書は怒る怒る。これは鈴木善幸氏の来静のため田中専用車を他に移動してしまっていたのです。

斉藤滋与史前県知事は田中派七日会会長でしたが，田中親分が来静の予定を連絡しておきましたので，骨折をしてギブス，松葉杖の出立で壇上に並び得ました。後で大変感謝されました。田中講演には県医は高額の金を出したようですが，無駄金だ，安井の選挙の為だとの苦情の声がありましたが，実は優生保護法改定阻止のお願いのためでもあったのです。

安井会長は，自分の作った花岡日医会長と意見が異なり，次期は立候補を決めていました。もっと政治家を知らんかと言われ，元衆院議長三重県選出の田村元氏を引き合わすことになり，田村さんの大好

物の舌平目のムニエルの美味しい，銀座のマキシムドパリに設定し，特に秋山店長に頼み，然るべき適切なテーブルで，総勢８人が夕食をとったのを思い出します。

昭和59年４月，花岡氏，羽田氏，吉川氏（現大分県医師会長）と４人の競いとなりました。私は吉川暉氏を赤坂の料亭「川崎」で接待をし，その後は銀座の高級クラブランデルで他県の代議員を交えて接待をしましたが，このような政治家等のとの接触も空しく，安井会長は破れました。

昭和62年４月の選挙でも36票差で羽田氏に破れました。しかし安井志郎先生は，厚生省の官僚を相手にせず，自民党大物政治家をバックに交渉をする手法を選んだのは全く賢明でした。時の厚生省事務次官吉村仁氏に「私が当選した暁には，一番先にやる事は君の首を切る事だ」と言った由吉村氏より聞きました。現在の日医も是非この手法に徹してほしい気がします。

私自身は元々医師会には無関係でした。安井会長の日医会長を夢見て協力し，日本中を廻りました。現三重県医師会顧問の川原田選対本部長も「安井さんの地元を安井派の会長にしなければ，天下は取れません」の言で安井会長の要請に応え，熱海市医師会会長選に立候補させられ（そう思っています），今まで舞台の一番前で応援していた者が，突然舞台にひっぱり上げられ，今度は自分も踊り，演ずることになってしまったと思っています。この時は既に安井会長は亡くなっていました。（約１年前，偽名で東京女子医大消化器病センターに入院し，手術を行いこれを隠蔽しようと苦労しました。）

諸兄姉の支援の元，正しい事を誠実に，11年間医政をして参りましたがいよいよ退くこととなりました。不本意で，医療の政治に手を染めてきたと思っています。今の心境を支那（現，中国）の詩人陶淵明「誤って塵網の中に陥つ」に託します。

医師会の益々の隆盛をお祈り致します。有難うございました。

尚，今回この文を書くに当たって４人の鈴木・佐々木・宮本・笠松「ゐのはな静岡」編集委員と菅ヶ谷県医理事に夫々詳しい情報の記載を依頼しました。

重複する内容もあろうかと思いますが御容赦下さい。

（さとう　とおる）

浜松地区のゐのはな会員のこと

宮本　恒彦（S.54）

静岡県西部地区のゐのはな会員の動向を，浜松医科大学（以下医大）が設立された頃から追ってみたい（文中敬称略）。

医大が設置されたのは昭和49年のことである。当時この地区には浜北に最年長で村尾（昭14）がおり，中島（昭21），和田（昭23），船越（昭25），掛井（昭25専），中村（昭27専），今井（昭27選），大坪（昭30），豊田（昭31）らが開業していた。また浜松医療センター呼吸器外科に半澤（昭41）らがチームで派遣されており，同院には小張（昭15）が長崎大学の関係ではあるが，院長として赴任していた時期もある。

医大に千葉の卒業生が教授として着任したのは，衛生の桜井（昭24），解剖の川名（昭34），公衆衛生の本宮（昭34），そして耳鼻咽喉科の野末（昭33），脳神経外科の植村（昭34）である。さらに寄生虫の佐野（日大）がいた。また後に眼科教授となった安達（昭37）が生理学の助教授として赴任していた。

野末は東大医局を経ての着任であったこともあり，教室員が千葉主体であったのは脳神経外科のみと言ってよいかもしれない。教室が開講となった昭53年に龍（昭42），忍頂寺（昭42）が講師として着任し，泉屋（昭44）や現在千葉大学フロンティアメディカルセンターの教授である下山（昭48）と檜前（昭52），そして新卒の古屋（昭53）が加わってスタートを切った。翌年には宮本（昭54），嶋田（昭54）の２人が加わり，さらに堺（昭45），横山（昭48）が順次留学から帰国すると同時に助手として着任した。医大の卒業生が出るのはその翌年であり，以後新規に千葉の卒業生が入局することはなくなったため，この時期が最も多数の同窓が医大に居たことになる。

清水厚生病院は関連病院として医大に引き継がれ

浜松医科大学附属病院

たが，当時の大学は内部の体制を構築することが急務で，新規に外に人を出す余裕もなかったのが実情であった。しかし医大の卒業生の入局も始まり，当時県内の各市が市立病院を相次いで設置して行く時期とも重なり，叙々に関連病院が増え，ゐのはな会員も次々に関連病院へ派遣されるようになった。忍頂寺は菊川病院院長を経て磐田すずかけ病院院長となり，現在は浜松すずかけ病院に勤務している。龍は医大の助教授を経て愛知県の総合青山病院に転じ，湖西市にある浜名病院の理事長も兼務している。泉屋は清水厚生病院の院長となった。横山は医大手術部助教授を経て御前崎市立病院の院長に就任した。文（昭46）は沼津市立病院を経て長泉町で開業，山本（昭52）は富士宮市立病院を経て掛井の後を継いで浜松で開業している。

新規に医大の関連病院となった一つが聖隷三方原病院である。当時今で言えば療養型のような診療内容であった三方原が，急性期医療にも参画しようとし始めた時期であり，いろいろな経緯を経て昭56年４月に科長として堺が赴任することになった。同年６月から宮本も加わり，後に堺は同院の副院長となり，同院の近代化に貢献したが，平４年に聖隷浜松病院に転じ，後にその院長となって同院を日本有数の病院として発展させるとともに，日本病院会でも活躍している。

聖隷三方原病院

聖隷浜松には，富山医科薬科大助教授であった中村（昭40）が眼形成眼窩外科を標榜して着任し，この領域のスペシャリストとして世界的な活躍をしている。また新設の呼吸器科には千葉大学の関連施設として医師派遣が始まり，現在中村（昭57山形）らが活躍しており，この医師不足が叫ばれる時期に本学巽教授の配慮もあって，遠隔地であるにも関わらず医療センターともども関連病院として維持されている。一方の三方原では堺の跡を宮本が引き継ぎ，脳神経外科科長を経て現在副院長を努めている。両聖隷とも新臨床研修制度により，本学出身の研修医も何人か赴任している。

医大も既に開設から30数年が経ち，初代の教授は全員退任した。新規に千葉から着任したのは，脳神経外科の難波（昭54）である。平11年に着任し，悪性脳腫瘍の治療などで着実に新たな成果を出し，植村が始めた教室を発展させている。また看護学科が開設された際に，千葉大学看護学部の卒業生が教員として多数着任し，ゐのはな会と活動をともにしてくれている。

聖隷浜松病院

この10年ほどの間に何人かの会員が亡くなられる一方，新たにこの地に赴任する会員がほとんどいないことが残念なことである。医大の設立が結果的に千葉へ行く学生の減少につながっているのかもしれない。

なお静岡ゐのはな会（当時は「ゐのはな同窓会静岡県支部」）に関連した活動について触れると，平９年の理事会で，中村武（昭20）会長が辞意を表明され，既に医大を退官していた野末が新会長に選出された。当時の規定では，静岡県を東・中・西と分け，会長の所属地域から庶務担当，会計担当の常任理事を選出することが慣例になっており，それぞれ宮本と嶋田が指名された。目に見える同窓会活動を始めようと，この時期に支部会報として「ゐのはな静岡」を発刊し，当時は年２回発行した。本部のデータを参照しながら名簿の充実も図った。

以後，平15年までその体制が続き，野末の健康上の理由で佐藤現会長に引き継がれ，地域の区分を廃止した運営など新しい運営が開始されている。

（みやもと　つねひこ）

静岡ゐのはな会と県西部浜松医療センター

笠松　紀雄（S.56）

当院は昭和48年に医師会病院を母体として設置され，そして昭和49年に浜松医科大学の関連教育病院となり，更に第三次救急としての救急医療の役割も兼務している，静岡県西部地域の中核的総合病院

（病床606床，診療科目30科，常勤医約82名）であります。

当院での千葉大学との関わりは，第二代院長（昭和50年から54年）に千葉大学第一内科出身，小張一峰先生が就任したことから始まります。昭和51年に胸部外科開設を行い，千葉大学肺癌研究施設外科（肺外科）から小林延年先生を招聘，昭和53年から半澤儁先生が胸部外科科長として就任し，以降半澤科長（昭和53年～平成14年勤務），和田源二先生（昭和54～61年勤務）を中心として，現在の籾木茂科長（平成３年～勤務，現副院長）に至るまで，延べ13名のスタッフで千葉大学肺癌研究施設外科の関連病院として肺癌などの呼吸器外科領域の専門的治療が運営されてきました。

また，当院呼吸器科では，昭和57年，それまでの長崎大学出身スタッフの離職に伴い，当時の浜松医科大学吉利和学長から千葉大学香月秀雄学長，および肺癌研究施設内科（呼吸器内科）渡辺昌平教授に医師派遣の依頼がなされました。その結果，橋爪一光先生（昭和57年～勤務，現副院長）が科長として招聘され，現在の笠松紀雄科長（平成元年～勤務）に至るまでの指導体制のもと，現在まで延べ46名のスタッフが千葉大学呼吸器内科から派遣され，幅広い呼吸器疾患の診療を運営し地域医療の貢献をしてきました。当院呼吸器科スタッフ卒業生は現在各地各分野で活躍中であります。また更に，平成13年度からは呼吸器科スタッフ卒業生の一人，加藤俊哉先生が救急科医師として当院に赴任し救急医療の分野において静岡県での中心的役割で活躍しています。

そして以上の経過において付記しなければいけないことは，当院呼吸器科領域と千葉大学の関わりには，当時浜松医科大学へ千葉大学から赴任されていた脳神経外科植村研一教授，耳鼻科野末道彦教授の多大な御尽力があったとも伝え聞き，同窓の連帯の重要性が再認識されました。

（かさまつ　のりお）

県中部地区と県医師会関係

菅ヶ谷純弘（S.45）

私は静岡県医師会理事を12年間も仰せつかっておりますので，静岡県医師会のこと，静岡県のこと県中部地区のことにつきまして，述べさせていただきます。

勝呂安先生（専20）は平成８年４月より４年間，県医師会長をされていましたが，現在は顧問として，お元気に時々お越しいただいております。松浦徳久先生（昭27）は昭和55年４月より８年間，県医師会理事を，昭和63年４月より６年間，静岡市医師会長をされ，その後介護保険関係で大変なご尽力をされています。土屋房雄先生（昭29）は昭和55年４月より６年間，県医師会監事をされていましたが，任期を終えられた６日後に突然ご逝去されております。吉川正宏先生（昭37）も理事をされていましたが，現在は私一人が役員です。

日本医師会の唐沢体制には，静岡県医師会としては全面的に協力をしているつもりです。役員こそ静岡県からは出しておりませんが，各種委員会におきましては重要な役割を果たしていると自負しております。県庁の医系技官は２名しか居らず，今回の新型インフルエンザ騒ぎをはじめとして，地域医療行政全般にわたり，協調体制をとって進めています。

静岡県は健康県で県民の受療率は低いといっても医師不足は深刻な問題です。とくに中部地区では本学からの医師派遣が大きな比重を占めていた清水厚

県西部浜松医療センター

生病院が医師不足のために急性期病院から慢性療養型病院に方向転換せざるをえなかったはまことに残念なことでした。

しかしながら，静岡県立こども病院では植田育也先生（平成３）の活躍で小児救急医療の問題が全国的に報道され，注目を集めています。ドクターヘリも活用して，静岡県以外の近隣の県からも急患が押し寄せています。日本の遅れた小児救急医療を取り戻し学ぼうと全国から研修医が集まっています。

また静岡県では後期研修医のために大変有利な奨学金制度を創設しています。大勢の応募がありましたが，本学からの希望者は現在のところありません。

大変住みよい県です。今後若い後輩の先生方が静岡県で活躍されることを希望し夢見ております。

（すげがや　よしひろ）

静岡県東部（沼津，三島，富士，富士宮）の現況

鈴木　昭一（S.43）

静岡県東部ゐのはな会は千葉大学からの出張の先生方の多い沼津市立病院が中心になりますので，従って市立病院に在籍してその後開業された先生方が多くおられます。現在では大学からの派遣も少なくなりゐのはな会員の減少が目立ち，市立病院自体も医師の確保に大変な現状です。静岡県東部の中心病院であり，500床の基幹病院ですので大学ゐのはな会におかれましても現在の医療情勢・研修医制度は厳しいものとは思いますが，ぜひ強力なご支援をお願いしたいものです。

最長老の勝呂安先生（昭20年卒）はまだお元気で診療をされておられます。永井順先生・松原保先生（昭34年卒）も沼津市立病院副院長を退かれた現在もそれぞれの場でお元気に現役を続けておられます。中山博先生・満野博章先生（昭37）は共にご開業は長くなりましたが，精力的に地域医療のために頑張っておられます。小林俊憲先生（昭39年卒）沼津市医師会副会長を２年前に退きましたが，介護保険等の役職も多く，忙しくご活躍されております。小澤弘侑先生（昭40年卒）は平岡真先生（昭23年卒）以来の沼津市立病院院長になられましたが，十分にその職責を果たされて３年前に退職なされました。平岡真先生は現在もお元気で三島市にお住まいです。

金元良人先生（昭41年卒）・鈴木昭一（昭43年卒）・文隆雄先生（昭46年卒）・前川岩夫先生（昭48年卒）・名古良輔先生（昭54年卒）・村岡秀樹先生（昭63年卒）も夫々の科において地域医療のために指導的な立場で活躍しておられます。

富士宮市では天神先生（昭45年卒）・髙橋先生（昭52年卒）がお元気で地域医療に貢献されております。

（すずき　しょういち）

東部地区と沼津市立病院について

佐々木健身（S.44）

静岡ゐのはな会は東部が黎明の地のようです。卒業年度の古い先生から要旨のみ述べてみます。

開業の先生　大塚三八雄先生（S.６）沼津市，ゐのはな会の最長老，故人。星野重雄先生（S.11）沼津市，会の重鎮，故人。小林俊憲先生（S.39）沼津市医師会副会長。土屋聖二先生（S.51）内科。名古良輔先生（S.54）眼科。村岡秀樹先生（S.63）内科。

病院勤務の先生　音琴勝先生（S.44）中伊豆リハ

沼津市立病院

ビリセンター長。菊池保治先生（H.２）聖隷沼津病院内視鏡科部長。

沼津市立病院勤務　鴻忠義先生（S.13）院長，眼科，故人。河田修先生（S.20）産婦人科部長，故人。勝呂安先生（S.20専）外科，開業，県医師会々長。大津饒先生（S.23）外科部長，施設勤務。平岡真先生（S.23）院長，泌尿器科。武藤滋先生（S.24）外科部長，開業。斯波隆先生（S.30）整形外科部長，開業。望月良夫先生（S.30）産婦人科部長，開業，故人。松原保先生（S.34）副院長，整外，介護福祉病院長。永井順先生（S.34）副院長，内科開業。満野博章先生（S.37）産婦人科部長，開業。中山博先生（S.37）外科部長，開業。小沢弘侑先生（S.41）院長，外科，介護施設長。金元良人先生（S.41）外科部長，開業。鈴木昭一先生（S.43）小児外科部長，開業。折田勲先生（S.43）小児科部長，開業。佐々木健身先生（S.44）内科部長，中伊豆リハビリセンター副院長。文隆雄先生（S.46）脳外科部長，開業。前川岩夫先生（S.48）産婦人科部長，開業。後藤信昭先生（S.50）副院長，消化器内科。円井芳晴先生（S.50）整形外科部長。内藤仁先生（S.51）泌尿器科部長，開業。篠崎正美先生（S.55）消化器科部長。望月真人先生（S.56）整形外科部長。田中泰弘先生（S.58）整形外科部長。卜部憲和先生（S.58）診療部長，呼吸器科。藤本肇先生（S.59）放射線科部長。萩谷雅人先生（S.59）麻酔科部長。門智史先生（H.１）産婦人科部長。

（ささき　たけみ）